

花火大会を楽しむ7つのポイント

外販課 野畑 貴史

さて、今年も花火大会の季節がやってきました。最近ではコロナ過でなかなか開催が控えられていましたが、今年の5月には2類感染症から5類感染症へ変更になったということもあり、この夏はコロナ過前まで開催されていた花火大会が全国各地で続々と行われます。私も花火大会にはいろんな思い出があり、毎年この時期を楽しみにしています。今回は花火大会を楽しむポイントをご紹介します。

ポイント1 熱中症対策はしっかりと!

予め渋滞を予測して、余裕をもって会場に到着するツアーがほとんどです。花火大会開始までにはしばらく時間がありますが、花火大会会場は日差しを遮るような物が何もない所が多いです。暑いので、会場を離れて時間潰しをするのも一苦労。帽子、飲み物等熱中症対策はきちんとして、本番の花火打ち上げを楽しみましょう!

ポイント2 トイレは行ける時に必ず行きましょう!

例年、花火大会会場のトイレは大行列が出来ます。行列に並んでいて、「見たかったプログラムを見逃した!」なんて事も…。帰り道も渋滞します。トイレは行ける時にタイミング良く行って、万全の備えをしましょう。

ポイント3 指定席(栈敷席)プランの方は座布団があると楽です ※分厚い物はNG!

栈敷席は地面にブルーシートをひいただけの所が多いです。長時間座っているとお尻が痛くなったりするもの…。観覧の際には軽くて薄い座布団があるとお尻を気にせず花火に集中する事ができます。高さのある物は後ろの方に迷惑になるので(折り畳み椅子等)NG!ご注意ください。

ポイント4 屋台を楽しみましょう

各花火大会毎に色々な屋台が出店されています。ご当地グルメを楽しむのも花火大会の醍醐味です。ビールを飲みながら、風情たっぷりの夏の夕暮れを楽しみましょう。

ポイント5 花火の大きさを知って、より花火を楽しもう

花火の尺玉は3号→4号…と号数が大きくなればなる程、玉の大きさも花火の大きさも大きくなります。世界最大でギネスブックにも載っている四尺玉(40号玉)は直径120cm。約800mの高さまで上がり、開いた花火の直径は約800mというから驚きです。

各花火大会では、「保安距離」というものが定められており、打ち上げることの出来る花火の号数も変わってきます。周囲に建物があったり、十分な距離がとれないと危険なので大きな号数の花火が打ち上げることが出来ません。

隅田川の花火大会はアクセスは非常によいのですが、打ち上げ場所周囲に建物が密集しているため、4寸玉までしか打ち上げる事が出来ません。「空いっぱい」に広がる花火を見る事が出来るのは、河川敷など広い打ち上げ場所を確保している花火大会。どうしてもアクセスが悪い場所になりがちですが、その分大きな花火を見る事ができます。

ポイント6 花火の種類を知って、より花火を楽しもう

代表的な花火は割物・ボカ物の2つ。「割物」は星(光や色彩などを出す部分の火薬)を割火薬で四方八方に飛ばす仕組み。まさに花火の正統! 花火の競技大会ではきれいな球型に開いているかどうか審査の基準になります。「ボカ物」は玉が上空に達した時に、くす玉の様に2つに割れて色々な内容物を放出する花火の事。花火大会でよく耳にする「スターマイン」とは花火の打ち上げ方の名称。連射連発方式の事を言います。スピード感の溢れる華やかさが特徴です。



割物



ボカ物



スターマイン

ポイント7 せっかくだから色んな花火大会に足を運びましょう

各花火大会会場の立地により、見ることの出来る花火の種類も変わります。事前に下調べをして、しっかり準備をして今年の花火大会を楽しみましょう!!

アポ新聞

地震に役立つ知識、災害時に生存率を上げる方法は?

リビングサービス課 北田 祥一

今年になって、日本での地震が多い気がするのは私だけでしょうか? すでにご存じかもしれませんが、地震に役立つ知識と生存率を上げる方法として少しですが参考にしてみてください。

北枕で寝た方が生存率が上がる

木造家屋の場合ですが、縁起の悪い「北枕」で寝る方が、地震の時に助かる可能性が高いことが分かっています。それは家屋の構造上、南側に採光のための比較的もろい部分が集中するため、対して北側は壁構造が多いために丈夫なのです。北枕で寝ると、南側で崩れても頭部が無事である可能性が高まります。

1階と2階ではどちらにいた方が良い?

阪神淡路大震災の時、一戸建ての家の倒壊では、1階にいたほとんどの人が圧死してしまい、2階にいた人は助かったそうです。意外にも、2階にいる場合は揺れがおさまるまで動かない方が助かる確率は高くなります。

揺れが一時的におさまった場合は、まずは窓やドアを開け放ってください。地震で建物が歪んでしまい、閉じ込められる可能性があるからです。

揺れがおさまったからといってすぐに飛び出すのは危険です。周囲の状況を冷静に判断してから、屋内にとどまるか外へ避難するかを判断しなくてはなりません。

地震の時、家の中の何処にいれば助かる確率が上がるのか?

地震発生後の10秒間の行動が生死の分かれ目となります。まずは頭と足の安全確保に全力を注ぎましょう。足を負傷すると動けなくなってしまうためです。

よく机の下にもぐれと言われますが、落下物から身を守るためにはいいが、建物が倒壊するほどの大地震の場合には、むしろ危険となります。世界60カ国で875軒の倒壊した建物で救助活動した経験がある人によれば、机の下にもぐったり車の中にいたりした人は、ほとんどが圧死したそうです。

助かった人の多くは、タンスやベッドなどの大きな家具の脇や、車のすぐ横で小さくうずくまっていたそうです。崩壊した天井屋根と、家具などの丈夫な構造物との間に三角形の生存空間ができて、そこにいたため人が助かったのです。

地震の規模によってどこに隠れるかで生死が変わってくることを覚えておきましょう。

震災後は小銭がないと困る

日頃、財布の中で邪魔者扱いされがちですが、災害時には心強い味方となってくれるのが小銭です。特に、10円、50円、100円は大活躍します。停電してもしばらくの間は稼働するように、バッテリーを備えた自動販売機がありますが、動いてもすぐに釣り銭切れになってしまうため、紙幣では買えなくなります。店舗はほとんど閉まってしまいますし、たとえ営業していても、釣り銭切れで釣り銭をもらえない事態が想定できます。東日本大震災直後は小銭しか使えなかったという報告もあります。

また停電になればキャッシュカードや電子マネー等も使えなくなるため、最低でも3日間は家族が生活できるだけの現金を小銭と合わせて用意しておきたいところです。

上記以外によく言われるのが、正確な情報を得るために携帯ラジオ・最低3日分の水や食料などは用意しておくことをお勧めします。